

株式会社オプティ

安全データシート

尿素水 AUS32 AdBlue

改訂日 2019年4月4日

発行日 2010年10月1日

1. 化学品および会社情報

◎製品情報

●製品名 AdBlue 32.5 (脱硝用尿素水)

◎会社情報

●会社名 株式会社オプティ
●住所 三重県三重郡川越町高松 133
●担当部門 本社品質管理課
●電話 059-363-2512
●ファックス番号 059-392-5266

2. 危険有害性の要約

●GHS分類

分類基準に該当しない

GHS分類区分は付与されないが取り扱い時には以下の点に注意する。

◎注意書

●予防策

使用前に取扱説明書を入手し、全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

取扱を終了した後は、手や顔、首などをよく洗うこと。

屋外への流出を避けること。

●応急処置

飲み込んだり、吸入または接触する又はばく露の懸念がある場合、さらに気分が悪い時は医師の診断を受け、手当を受けること。

●廃棄

内容物および容器を廃棄するときは、当該法規に従い、都道府県知事に許可された産業廃棄物処理業者に委託すること。

使用済みの容器は、他の用途に使用しないで適切に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

●化学物質・混合物の区分 混合物

| 化学名 | 化学特性(構造式) | CAS 番号 | 濃度又は濃度範囲 | 官報公示整理番号 |
|-----|------------------------------------|-----------|------------|------------|
| 尿素 | (NH ₂) ₂ CO | 57-13-6 | 31.8~33.2% | 化審法 2-1732 |
| 水 | H ₂ O | 7732-18-5 | 66.8~68.2% | 化審法：対象外 |

4. 応急処置

●吸入した場合

異常を感じたり、気分が悪くなった場合には、直ちに空気の新鮮な場所へ移動する。

●皮膚に付着した場合

汚染された衣類、靴などを即座に脱ぎ、付着した製品を水またはぬるま湯で洗い流しながら石鹸等を使用して洗い落とす。

外観に変化が見られたり痛みがある場合は、速やかに医師の診断を受ける。

●目に入った場合

直ちに清浄な水で数分間洗浄する。

洗顔の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたの隅々まで行き渡るよう洗浄する。

コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。

異物感がある場合、速やかに医師の診断を受ける。

●飲み込んだ場合

無理に吐かせないこと。

意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。

口を水ですすぐ。

保温して速やかに医師の診断を受ける。

●応急措置をする者の保護

保護手袋、保護衣、保護メガネ、保護面、呼吸用保護具、保護長靴などの適切な保護具を着用する。

●医師に対する特別な注意事項

症状に応じた適切な治療を行う。

5. 火災時の措置

●消火剤

棒状水、霧状水、泡消火材、粉末消火剤、二酸化炭素、乾燥砂

●使ってはならない消火剤

なし

●特有の危険有害性

当該製品は分子中に窒素を含有しているため、火災時に刺激性もしくは有毒なガスを放出する。

●消化を行う者の保護

消火作業の際は、状況に応じた保護具（自給式呼吸器、防火服、防災面など）を必ず着用する。

●詳細情報

この製品自体は不燃性であるが、周辺火災の場合、以下の措置を行う。

- 1) 火災の発生源となるものを速やかに取り除く。
- 2) 火災発生場所の周辺に、関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 3) 移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移動する。
- 4) 消火活動は、可能な限り風上から行う。
- 5) 容器および周囲の設備などに散水して冷却する。

6. 漏出時の措置

●人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

保護手袋、保護衣、保護メガネ、保護面、呼吸用保護具、保護長靴などの適切な保護具を着用する。

漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。

風上から作業し、風下の人を避難させる。

作業の際には保護具を着用し、飛沫などが皮膚に付着したり、蒸気ミストを吸入しないようにする。

漏れた場所の周辺から人を避難させる。

●環境に対する注意事項

漏出物を直接、河川や排水施設に流してはならない。

●封じ込めおよび浄化の方法および機材

少量の場合には、乾燥砂、土、おがくず、ウエスなどに吸着して密閉できる容器に回収する。

大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。

危険なくできるときは、漏出を遮断し、漏れを止める。

7. 取扱および保管上の注意

◎取扱い

●技術的対策

8章の「設備対策」を参照する。

吸入、皮膚への接触を防ぎ、目に入らないよう適切な保護具を着用する。

取り扱い場所の近くには、手洗い、洗眼などの設備を設け、取り扱い後に、手や顔などを洗う。

取り扱い場所は換気を良くする。

●安全取り扱い注意事項

全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。

漏れ、あふれ、飛散を防ぎ、みだりに蒸気を発散させない。

容器は転倒、落下、衝撃を加える、引きずる等の取扱いをしてはならない。

接触、吸入、あるいは飲み込まない。

屋外または換気の良い場所で取り扱う。

●接触回避

乾燥した涼しい環境の良い場所で、容器の栓をしっかりと閉めて保管する。

法令等により規定された基準に従って保管する

●衛生対策

取扱い後は、手をよく洗うこと。

この製品の使用中は飲食や喫煙をしないこと。

◎保管

●安全な保管条件

容器を密閉して直射日光を避け、換気の良い暗所に保管する。

保管場所の床は、床面に水が浸入・浸透しない構造とする。

保管場所には、必要な採光、証明および換気の設備を設ける。

●混触禁止物質 : 強酸化剤

●安全な容器包装材料

貯蔵タンクの材質は、プラスチックおよびステンレスが最適。

8. ばく露防止および保護措置

◎管理濃度

●作業環境評価基準 : 未設定

◎許容濃度

●日本産業衛生学会、許容濃度等の勧告 : 未設定

●ACGIH : 未設定

●設備対策

取り扱い場所の近くに、眼の洗浄および身体洗浄のための設備を設置する。

必要に応じて局所排気装置や全体換気装置等を設置した場所で取り扱う。

◎保護具

●呼吸用保護具

必要に応じて防塵マスク、防毒マスク等を使用する。

●手の保護具 : 保護手袋

●眼の保護具 : 安全ゴーグル、保護メガネ、保護面

●皮膚および身体の保護具 : 保護服、ヘルメット等、保護長靴、保護前掛け

9. 物理的および化学的性質

◎外観

- 物理的状态 : 液体
- 形状 : 水溶液
- 色 : 無色透明
- 臭 : 無臭もしくは薄らとアンモニア臭

◎安全性データ

- pH : 8~10 (40%水溶液)
- 融点・凝固点 : -11.0℃
- 沸点・初留点及び沸騰範囲 : データなし
- 引火点 : データなし
- 自然発火温度 : データなし
- 爆発範囲の下限 : データなし
- 爆発範囲の上限 : データなし
- 蒸気圧 : データなし
- 密度・比重 (20℃) : 1.090 g/cm³
- 水への溶解度 : データなし
- 分解温度 : 139℃

10. 安定性および反応性

- 化学的安定性 : 通常の状態では安定。
- 避けるべき条件 : 高温、直射日光
- 混触危険物質 : 強酸化剤
- 危険有害な分解生成物 : アンモニア

11. 有害性情報

◎製品

- 急性経口毒性 : 区分外
- 急性皮膚毒性 : 区分外
- 急性吸入毒性 : 分類できない
- 皮膚腐食性および皮膚刺激性 : 区分外
- 眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性 : 区分外
- 感作性 (呼吸器感作性) : 分類できない
- 感作性 (皮膚感作性) : 区分外
- 生殖細胞変異原性 : 分類できない
- 発がん性 : 分類できない

- 生殖毒性 : 分類できない
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 分類できない
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 分類できない
- 吸引性呼吸器有害性 : 区分外
- ◎成分
- ◎尿素
- 急性経口毒性 LD50 ラット : 14,300mg/kg
- 急性皮膚毒性 LD50 ラット : 8,200mg/kg

1 2. 環境影響情報

- ◎生態毒性
- ◎製品
- 急性毒性 水生環境有害性 : 急性有害性 区分外
- 長期間毒性 水生環境有害性 : 長期間有害性 区分外
- ◎生体蓄積性
- ◎製品
- n-オクタノール/水分配係数 : データなし
- ◎他の有害影響
- オゾン層への有害性 : 分類できない

1 3. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物

関連法規ならびに地方自治体の基準に従う。

認可された廃棄物処理業者に委託し、適切に処理する。

廃棄物処理を委託する場合、処理事業者に危険性および有害性を十分に説明の上処理を委託する。

1 4. 輸送上の注意

- ◎国際規制
- IATA : 非危険物
- IMDG : 非危険物
- ◎国内規制
- 陸上輸送 : 規制なし
- 海上輸送 : 規制なし
- 航空輸送 : 規制なし

15. 適用法令

◎国内適用法令

●水質汚濁防止法

生活環境汚染項目（法第2条、施行令第3条、排水基準を定める省令第1条別表第2）窒素含有量

16. その他の情報

●参考文献

自社データ

日本工業規格（JIS）Z7252:2009

日本工業規格（JIS）Z7253:2012

その他の文献調査により得ることのできた情報

記載内容は、現時点で入手できる資料および情報に基づき、エコツアーライトの取り扱い、使用、処理、保管、輸送、廃棄、漏洩時の処理等を安全に行って頂くために作成したものです。記載されている情報はいかなる保証をするものではありません。また、品質を保証するものではありません。この SDS のデータは、尿素水による脱硝設備および装置に使用することに限定しているもので、指定されていない工程での使用や、指定されていない材料との組み合わせ使用に関しては適用されません。